

シラバス参照

講義名	情報科学概論		
(副題)	Introduction to Information Science		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	1年後期		
必修・選択区分	学部必修		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 越智士郎

授業の概要	コンピュータ、情報端末、ネットワークなどの情報技術と私たちの生活との関わりについて、身近な事例を通して仕組み学び、社会を支える情報システム全般について学ぶ。日常生活で無意識に利用している情報機器や情報サービスなどの仕組みに触れながら、コンピュータ、ネットワークと情報化が現代社会にどのような影響を与えているかを学ぶ。また、ChatGPTなどの生成系AIを含むAI(人工知能)、データサイエンス、ビッグデータ、IoT(モノのインターネット)、DX(デジタルトランスフォーメーション)など、最近の話題にも触れ、「情報とは何か」「情報科学とは何か」を学ぶ。講義では、ノートPC、スマートホン等を使用し、情報科学に対する理解を深める。本講義は、富山国際大学 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラムの対象科目で、プログラムの修了認定を受けるための必修科目である。(担当教員：実務経験あり)
キーワード①	コンピュータ
キーワード②	インターネット
キーワード③	セキュリティ
キーワード④	データサイエンス
キーワード⑤	人工知能

到達目標

到達目標①	①情報をとりまく技術について説明できる (30%)
到達目標②	②情報をとりまくルールや制度について説明できる (30%)
到達目標③	③学生・社会人としての最低限の情報リテラシーを身につける (40%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	25%
専門性の向上 (DP2)	50%
社会性の向上 (DP3)	25%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現①現代社会に必要な基礎知識の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
○		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス・授業の進め方・評価方法 社会で起きている変化(AIの普及と情報倫理・情報セキュリティ) 社会で起きている変化を知り、情報科学を学ぶことの意義を理解する。	【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	70分
第2回	コンピュータの仕組みと歴史 コンピュータを構成する上で欠かせない5大装置(「入力」「出力」「制御」「演算」「記憶」)の役割と、今日に至るまでのコンピュータの開発・発展の歴史について理解する。	【予習】コンピュータの仕組みと歴史について調べる。【復習】授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第3回	オペレーティングシステム・ソフトウェア Windows、マック、Linux、ios(iPhone/iPad)やAndroidなど、オペレーティングシステム・ソフトウェアの役割、仕組みについて理解する。	【予習】オペレーティングシステム・ソフトウェアについて調べる。【復習】授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第4回	コンピュータアプリケーションとプログラム・アルゴリズム パソコンやスマホで使うアプリはどのようにできているのか。プログラムとアルゴリズムの基礎について理解する。	【予習】プログラム・アルゴリズムとデータ構造について調べる。【復習】授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第5回	テキスト(文字)・画像・音声・動画メディア コンピュータの中でテキスト(文字)データ、画像データ、音声データ、動画データなどがどのようなしくみで扱われているかを理解する。	【予習】文字コードについて調べる。音声・動画メディアについて調べる。【復習】授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第6回	インターネットサービス、データベース インターネットを利用したサービスやビジネスの種類や形態について理解する。SNSやネ	【予習】アマゾンなどネット通販を運営する際に必要な情報について考える。SQLについて調べる。【復習】授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分

	ット通販とデータベースの関係について理解する。		
第7回	インターネットの仕組み インターネットを通じてどのように情報が伝達されるかを理解する。メールやWebの仕組みを理解する。	[予習] インターネットの仕組みについて調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第8回	著作権とプライバシー 情報を扱い活用する上で注意すべきルールについて理解する。	[予習] 著作権法と個人情報保護法について調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第9回	情報セキュリティ 情報を扱い活用する上で注意すべき行動について理解する。	[予習] 情報セキュリティについて調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第10回	ブロックチェーンと暗号化技術 ブロックチェーン技術の概要とユースケースについて学ぶ。また、暗号の歴史と暗号化技術(公開鍵暗号方式など)の仕組みについて理解する。	[予習] ブロックチェーンについて調べる。公開鍵暗号方式について調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第11回	人工知能(AI)の普及とその課題 データ・AIを活用するために使われている技術の概要を理解する。ChatGPTなどの生成系AIによる社会の変化とその課題について考える。	[予習] 大規模言語モデル(LLM)について調べる。ChatGPTについて調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第12回	IoT(Internet of Things)・ビッグデータ データを収集、蓄積、活用するための新しい技術について理解する。POSデータや人流データなどのビッグデータの価値について理解する。	[予習] IoT(Internet of Things)について調べる。POSデータについて調べる。人流データについて調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第13回	データリテラシー、オープンデータ 国や自治体が公開しているオープンデータについて理解する。また、そうしたデータを手、分析し、結果を表現する方法について学ぶ。	[予習] 国のオープンデータ(e-Statなど)について調べる。2020年度国勢調査の富山県市町村データの一つをダウンロードしてみる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第14回	クラウドサービス クラウドサービスの種類と運用形態(SaaS, PaaS, IaaS)について理解する。	[予習] SaaS, PaaS, IaaSについて調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分
第15回	DX, Society5.0(授業全体の振り返りを兼ねて) 授業全体を振り返り、Society5.0について考える。	[予習] これまでの講義資料を見直す。Society5.0について調べる。富山県のDXについて調べる。[復習] 授業の講義資料を再確認し、授業で出題される課題を提出すること。	90分

評価方法	各回の課題提出内容(70%)と期末テスト(30%)により評価する。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕」にしたがって評価する。
使用資料<テキスト>	各回で資料を配布する
使用資料<参考図書>	樋口知之ほか(著)北川源一郎・竹村彰通(編)「教養としてのデータサイエンス」講談社サイエンティフィック その他必要に応じて都度指示する
授業外学修等	ノートPCを使用する回があります。事前に授業や情報共有ツール(Teams等)で通知します。出席確認にはノートPCかスマートフォン(タブレット端末)が必要です。
授業外質問方法	情報共有ツール(Teams)やメール(ochi@tuins.ac.jp)の利用、研究室を直接訪問するなど、気軽にお問い合わせください。
オフィス・アワー	木曜日・2限目・423研究室

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語Ⅱ		
(副題)	French Ⅱ		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	4		
代表曜日	火曜日	代表時限	3時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	1年後期		
必修・選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 大谷孝行

授業の概要	フランス語Ⅰで学習した内容を踏まえながら、さらに複雑なフランス語の表現を学習します。具体的には、未来や過去など、現在以外のことを語る表現について学びます。また、映像教材を見ながらフランス各地を旅してその魅力を探るとともに、フランスの代表的な歌（シャンソン）も学びます。
キーワード①	初級文法
キーワード②	初級会話
キーワード③	シャンソン

到達目標

到達目標①	①基本的なフランス語の文章を音読できる。(20%)
到達目標②	②フランス語の基本的な文章の構造を理解でき、基本的な文章を「読み、書き、話し、聞く」ことができる。(70%)
到達目標③	③フランス各地の特色（観光名所、歴史的建築物、郷土料理など）を学び、他者に説明することができる。(10%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	0%
専門性の向上 (DP2)	60%
社会性の向上 (DP3)	40%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現②国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
◎	○			

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	◎	◎			

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	前期の復習 前期で学んだ事項について復習します。	〔復習〕動詞の活用について復習しておく。	30分
第2回	前期の復習 前期で学んだ事項について復習します。	〔復習〕基本数詞について復習しておく。	30分
第3回	会話「この絵は美術館にきたばかりです」 近接過去venir de について。	〔復習〕近接過去の表現についての復習。	30分
第4回	会話「それを訳してみましよう」 近接未来 aller について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕近接未来の表現についての復習。	30分
第5回	補語人称代名詞 「私を（私に）」「あなたを（あなたに）」「彼を（彼に）」などの表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕補語人称代名詞の用法についての復習。	30分
第6回	会話「座りましよう」 代名動詞の用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕代名動詞の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第7回	会話「あそこに小さな休憩室があります。」 様々な非人称表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕様々な非人称表現の復習。	30分
第8回	補語人称代名詞、代名動詞、非人称表現 補語人称代名詞、代名動詞、非人称表現についての演習で理解を深めます。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕補語人称代名詞、代名動詞、非人称表現についての復習。	30分
第9回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 過去のことを表す。複合過去形。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕過去分詞の作り方の復習。	30分

第10回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 様々な複合過去の表現を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 複合過去形の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第11回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 様々な複合過去の表現を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 複合過去形の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第12回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 非人称表現（天候、時刻）。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 非人称表現（天候、時刻）の復習。	30分
第13回	「誰かがドアをロックしている」 主語代名詞on の用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 主語代名詞on の用法についての復習。	30分
第14回	「このバッグはあれよりも高い」 比較級、最上級表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 比較級、最上級表現についての復習。	30分
第15回	まとめ。これまでの授業の復習。 特殊な形の比較級・最上級。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。 テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	[復習] 特殊な形の比較級・最上級についての復習。	30分
第16回	中間試験		

評価方法	到達目標 1 については、授業中の発話で評価します。(20%) 到達目標 2 については、毎回の小テスト(40%)、期末筆記テスト(30%)で評価します。 到達目標 3 については、期末筆記テストで評価します。(10%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 ②社会性：40%、③専門性：60%
使用資料<テキスト>	田村弘行『フランス語でくようこそ』三修社。
使用資料<参考図書>	授業中に随時紹介します。
授業外学修等	毎回、授業の開始時に、前回授業の内容について小テストを行います。したがって、前回の授業を復習して授業に臨むことが必須です。 テキストの録音音声を各自が必ずダウンロードして、復習に役立ててください。
授業外質問方法	オフィスアワー時に直接質問を受けます。
オフィス・アワー	月曜日・4限目・324研究室

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
(副題)	Gender Studies		
開講責任部署	子ども育成学部子ども育成学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4時限
校地	呉羽キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 彼谷環

授業の概要	社会的・文化的な性のありようを意味するジェンダーは、時代や地域、社会によって意識や変化がみられる。ジェンダーの概念はどのような社会のなかで成立し、国・地域の制度や法に影響を与えてきたのだろうか。日本は毎年発表されるジェンダーギャップ指数での順位が低迷し続けている。特に政治・経済分野で「ジェンダー平等」を実現するにはどのような政策が必要だろうか。また、性の多様性を支える施策について、先進国の好事例と比較しつつ検討してみよう。
キーワード①	ジェンダー平等
キーワード②	性の多様性
キーワード③	隠れたカリキュラム
キーワード④	DVの防止
キーワード⑤	SOGI

到達目標

	到達目標
到達目標①	①ジェンダーの概念について、説明できる(20%)。
到達目標②	②これまで普遍的だとされていた考え方に対し、異なる視点があることを理解できる(40%)。
到達目標③	③「ジェンダー不平等」が生じる社会的・政治的背景を考え、解決する方法について議論できる(40%)。
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
○		○	○			

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
		◎

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	0%
専門性の向上 (DP2)	0%
社会性の向上 (DP3)	100%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
子①子ども育成の教養	

キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ	
○	○		◎	○	
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○		◎		○
授業計画表					
回	【授業内容】	（事前・事後学習）		（事前・事後学習時間）	
第1回	ガイダンス——「ジェンダー」とはなにか。「両性の平等」原則と現実とのギャップを日本、世界の現状から考える。	[予習] 「ジェンダー」概念について、文献やネットの情報を活用して調べておく。[復習] 現代社会でみられる日本と世界のジェンダー差別について整理する。		180分	
第2回	近代日本における性差別と今日の動向を整理する——「性別二元論」に基づく社会制度はどう変化しているか？	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 多様な性の存在を認める諸外国の制度について整理しておく。		180分	
第3回	教育——学校教育におけるジェンダー・バイアス、「隠されたカリキュラム」について考える。	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 文部科学省の通達の内容を理解し、望ましい教育現場の在り方について自分の意見をまとめる。		180分	
第4回	家族——現代に残る「家制度」、変容する家族のあり方を考える。	[予習] レジュメに目を通しておく[復習] 家庭生活における男女平等が実現した部分、そうでない部分を整理しておく。		180分	
第5回	生殖補助医療とリプロダクティブ・ライツ	[予習] 資料を読んでおく。[復習] 生殖補助医療について最新の動向を調べてみる。		180分	
第6回	ジェンダーギャップ解消を目指して	[予習] 資料を読んでおく。[復習] 世界の様々な団体が発表するジェンダーギャップ指標からわかることをまとめる。		180分	
第7回	社会保障——家族モデルの変化と社会保障制度の未来について考える。	[予習] テキストの該当箇所を通読し、日本の現行制度を調べておく。[復習] 日本の社会保障制度と諸外国のそれとの違いをまとめる。		180分	
第8回	性暴力・その1——刑法上の犯罪はどのように変容してきたかを考える。	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 刑法における罪の種類が変更したことについてまとめる。		180分	
第9回	性暴力・その2——ドメスティック・バイオレンス（DV）、デートDV、児童虐待の「いま」を学ぶ。（外部講師・自治体の相談支援員による講義）	[予習] DVが生じる理由と子どもに与える影響について、他の授業科目で学んだことも活用しながら整理する。[復習] 外部講師の話聞いて感想をまとめる。		180分	
第10回	産む自由／産まない自由——「リプロダクティブ・ライツ」（性的自己決定権）の歴史と内容を理解する。	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 宗教や文化を背景に、諸外国の制度に違いがあることを理解する。		180分	
第11回	性表現——ポルノグラフィと「性表現の自由」、刑法の「わいせつ罪」規定との関係を考える。	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 既存の法律を根拠に、どこまでが「表現の自由」として認められるかを考える。		180分	
第12回	政策決定——政治・行政における女性参加の促進、「ポジティブ・アクション」について検討する。	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 女性の政治参加が顕著な諸外国の制度とその効果についてまとめる。		180分	
第13回	司法——犯罪被害者・犯罪加害者とジェンダーの関係性を考える。性被害者に対する報道による「二次被害」の深刻さ、「加害者に対する教育」にはどのようなものがあるか。	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 犯罪被害者と加害者の報道の仕方について、新聞やネットニュースを比較しながらまとめてみる。		180分	
第14回	男性にとってのジェンダー——多様な社会を目指して	[予習] テキストの該当箇所を通読する。[復習] 男女平等の実現を男性の視点から考察する重要性を理解する。		180分	
第15回	世界のなかの性差別——児童婚、持参金制度（インド）、女子割礼（アフリカ諸国）等、人権侵害と指摘される文化的慣習について考える。	[予習] これまで学んだ諸外国の性差別について整理しておく。[復習] 授業内容について、「子どもの権利」の保障という視点からも深められるようにする。		180分	
第16回	0				
評価方法	到達目標項目①及び②では、期末レポートで評価する（60%）。 到達目標項目③では、主に授業中の課題で評価する（40%）。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。				
使用資料<テキスト>	犬伏由子・君塚正臣・井上匡子編『レクチャー ジェンダー法・第2版』（法律文化社）				
使用資料<参考図書>	テーマにあわせ適宜資料を配布する。				
授業外学修等	・授業のはじめに今日生起している法的社会的ニュースを取り上げるので、各自新聞をよく読んでくること。 授業テーマについては、テキストや資料・文献等を参考に復習を心がけること。				
授業外質問方法	現代社会学部と合同のオンライン授業のため、時間外の質問はメールで受け付ける。 kayatama@tuins.ac.jp				
オフィス・アワー	火曜日・3限目・E312研究室				

シラバス参照

講義名	人工知能とその活用		
(副題)	Artificial Intelligence and its Practical Application		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 新森昭宏

授業の概要	<p>画像認識・機械翻訳・対話ロボットなど、人工知能（AI: Artificial Intelligence）を活用した製品やサービスが広く使われ始めている。これらの成果は、1950年代からの長い歴史を持つ研究の積み重ねによってもたらされたものである。現在も多くの研究課題があり、継続して研究開発が勧められている。それと並行して、製造・流通・金融・医療・農業・水産業など多くの産業分野への応用展開も進められている。この授業では、人工知能の基礎概念を学び、技術動向と活用状況についての理解を深める。</p> <p>（担当教員：企業での実務経験あり）</p> <p><注意>本授業では、スマートフォン、またはタブレット端末、またはPCを利用して、小テストや課題を行うため、いずれかを毎回持参すること。</p>
キーワード①	アルゴリズム
キーワード②	探索
キーワード③	論理と推論
キーワード④	機械学習
キーワード⑤	データサイエンス

到達目標

到達目標①	人工知能技術の基礎概念を説明できる。 (40%)
到達目標②	人工知能技術の活用状況を説明できる。 (40%)
到達目標③	人工知能の活用について、自らアイデアを出すことができる。(20%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	10%
専門性の向上 (DP2)	80%
社会性の向上 (DP3)	10%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑨経営情報に関する専門性の向上	現③キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
○	○	◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス。人工知能をめぐる最近の話題と、人工知能の概要、人工知能の歴史と課題（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	【予習】 シラバスを読むこと。人工知能に関する新聞記事やTVニュースを見ておくこと。 【復習】 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第2回	人工知能の基礎：アルゴリズム（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	【予習】 「ユークリッドの互除法」について調べておくこと 【復習】 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第3回	人工知能の動向：探索、推論（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	【予習】 深さ優先探索と幅優先探索についてインターネットで調べておくこと。 【復習】 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第4回	人工知能の動向：知識表現（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	【予習】 「エキスパートシステム」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 【復習】 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第5回	人工知能の動向：機械学習・深層学習（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	【予習】 「機械学習」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 【復習】 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第6回	人工知能分野の問題： トイ・プロブレム、フレーム問題、チューリングテスト、強いAIと弱いAI、	【予習】 「チューリングテスト」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。	180分

	知識獲得ボトルネック (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	
第7回	機械学習の具体的方法：教師あり学習 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「回帰」「教師あり学習」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第8回	機械学習の具体的方法：教師なし学習、強化学習、モデルの評価 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「クラスタリング」という用語についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第9回	これまでのまとめ 中間試験	[予習] これまでの授業内容を復習しておくこと。 [復習] 中間試験結果を見直すこと。	180分
第10回	ディープラーニングの概要：多層パーセプトロン、事前学習、GPU (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「ディープラーニング」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第11回	ディープラーニングの概要：活性化関数、学習率の最適化、更なるテクニック (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「活性化関数」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第12回	ディープラーニングの手法：CNN、深層生成モデル、画像認識 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 物体認識についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第13回	ディープラーニングの手法：音声処理と自然言語処理、深層強化学習 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 自然言語処理についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	180分
第14回	ディープラーニングの社会実装：AIと社会、AIプロジェクトの進め方、データ収集・加工・学習、実装・運用・評価 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 最近の新聞で、AIに関する記事について調べておくこと。 [復習] 講義資料を再確認し、課題レポートを提出すること。	180分
第15回	ディープラーニングの応用事例：製造業、モビリティ、介護、インフラ、サービス・小売・物流、農林水産業、金融 (理解度を自己確認できるように、授業中に Microsoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] ディープラーニングの応用事例についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すこと。期末試験に向けた学習を行うこと。 なお、理解度を自己確認できるようにするため、これまで課したMicrosoft Formsを使った小テストを繰り返し実施できるようにする。	180分
第16回			

評価方法	中間試験 (45%)、期末試験 (50%)、数回の授業で課した課題 (5%) にて評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。
使用資料<テキスト>	・「ディープラーニング G検定 公式テキスト 第2版」(翔泳社, 2021)
使用資料<参考図書>	・「人工知能は人間を超えるか」(松尾豊著, KADOKAWA, 2015)
授業外学修等	数回の授業において課題を課す。提出された課題のうちフィードバックが必要なものは、次回の授業でフィードバックを行う。

	日頃から新聞記事、テレビ番組などで人工知能関連の情報収集をすること。
授業外質問方法	メールまたはオフィス・アワーで対応。
オフィス・アワー	月曜日・1限目・127研究室

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住環境デザインⅡ		
(副題)	Living Environment Design II		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 川本聖一

授業の概要	<p>本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザインⅠ」「住環境デザインⅡ」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。</p> <p>その中で、「住環境デザインⅠ」と「住環境デザインⅡ」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。</p> <p>「住環境デザインⅡ」では、住まいの設計、構造と環境工学、住まいの法律、生産についてを学ぶ。住宅設計実務者（教員）による住宅設計実習「20年後の自分に対する住宅提案」を行う。</p> <p>（担当教員：企業での実務経験豊富） （関連SDGs：目標7、目標11、目標12）</p>
キーワード①	住まいの設計と生産
キーワード②	構造と材料
キーワード③	住まいと環境工学
キーワード④	住まいの設備
キーワード⑤	住まいの法制度

到達目標

到達目標①	①住まいの設計の基本事項を説明することができる。(30%)
到達目標②	②住まいの性能に関して説明できる。(40%)
到達目標③	③住まいの法律・生産の基本的項目を説明できる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	15%
専門性の向上 (DP2)	60%
社会性の向上 (DP3)	25%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑧環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
○		○		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○	○			○

授業計画表

回	【授業内容】	(事前・事後学習)	(事前・事後学習時間)
第1回	ガイダンス	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第2回	住まいの設計（1）	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第3回	住まいの設計（2）	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第4回	住まいの設計例	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第5回	住まいの構造	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第6回	住まいを構成する材料	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第7回	住まいと環境工学（気候・空気・音）	【予習】 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分

第8回	住まいと環境工学 (光・熱)	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第9回	省エネルギーな住まい	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第10回	住まいの設計実習	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。 住まいの設計実習では、受講者が作成した「20年後の自分に対する住宅提案」に用いて、設計実務者(教員)による評価会を行う。そのため、受講者は、この時までに「20年後の自分に対する住宅提案」を作成する必要がある。	150分
第11回	設備機器	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第12回	電気設備・照明・防災設備	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第13回	バリアフリーデザイン	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第14回	住宅関連法制度の概要	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第15回	住まいの生産とマネジメント	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
評価方法	到達目標について、「富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕」に従った観点から評価する。毎回の講義の終わりに行う「ミニテスト」(約50%の評価)、全員が提出すべき「必修レポート」(「復習テスト」を含む)、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」、調べたことを全員の前で発表する「プレゼンテーション」(ミニテスト以外で約50%の評価)の4項目で評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。		
使用資料<テキスト>	オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリントをストックできるように準備すること。		
使用資料<参考図書>	授業の内容はWeb Class上にアップするので、予習・復習に活用することができる。		
授業外学修等	授業以外に、自ら調べてそれを自分の言葉でまとめる「自由レポート」出題する。これら各自興味がある項目を深く掘り下げる。これ以外に、全員が提出すべき「必修レポート」、過去の講義内容を復習する「復習テスト」がある。		
授業外質問方法	オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、Web Classにて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールにて行うことを希望する。 メールアドレス : kawamoto@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	水曜日・1限目・439研究室		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報社会と情報倫理		
(副題)	Information Society and Information Ethics		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 越智士郎

授業の概要	<p>社会のさまざまな場で情報化やデジタル化が進んでいる。情報化やデジタル化によって、生産性向上・産業振興・二酸化炭素排出量削減・高齢化対策などの社会的課題の解決に役立つことが期待されている。その一方で、秘密情報・個人情報漏洩と拡散、情報の捏造と拡散（フェイクニュース等）、SNSを使った事件（いじめ、犯罪等）などの新たな問題や課題も生まれている。現代の社会人は、これらの知識に加えて、情報セキュリティや知的財産権についての基本知識を身に付けておくことも必要となる。</p> <p>この授業では、情報化・デジタル化の内容と意義を理解するとともに、新たに生じている問題や課題とその対策について考察・議論する。</p> <p>（担当教員：企業での実務経験あり）</p> <p><注意>本授業では、スマートフォン、またはタブレット端末、またはPCを利用して、小テストや課題を行うので、いずれかを毎回持参すること。</p>
キーワード①	情報セキュリティ
キーワード②	個人情報保護
キーワード③	知的財産権
キーワード④	デジタルトランスフォーメーション
キーワード⑤	データ駆動社会

到達目標

到達目標①	情報セキュリティ、秘密情報保護・個人情報保護、知的財産権の基本事項を説明できる。(40%)
到達目標②	SNS、電子商取引、電子政府、電子決済、デジタルトランスフォーメーション(DX)、データ駆動社会の基本事項を説明できる。(30%)
到達目標③	情報化やデジタル化の進展にともなって生じている問題や課題を理解し、その対策を考察・説明できる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	10%
専門性の向上 (DP2)	80%
社会性の向上 (DP3)	10%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑤専門分野に共通する基礎知識の向上	現⑨経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
○		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス。「Society 5.0」について（歴史と背景、概要） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 シラバスを読むこと。「Society 5.0」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第2回	情報セキュリティ（概念、事例、法律） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 情報セキュリティについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第3回	情報セキュリティ（共通鍵暗号、公開鍵暗号、マルウェア、スパム、DoS攻撃） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 共通鍵暗号、公開鍵暗号、マルウェア、DoS攻撃のうち1つを選んでインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第4回	知的財産権（特許権、意匠権、商標権） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 特許庁のホームページの特許権、意匠権、商標権に関する説明を読んでおくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第5回	知的財産権（著作権） （理解度を自己確認できるように、授業	〔予習〕 文化庁のホームページの著作権に関する説明を読んでおくこと。	60分

	中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	
第6回	視覚障害者と情報技術（外部講師による授業）	〔予習〕視覚障害者が社会参加するためにはどのようにすれば良いかについて調査し、考察しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第7回	秘密情報保護、個人情報保護（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕営業秘密、または個人情報のいずれかについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第8回	SNS（概要、メリット、課題）（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕SNSについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第9回	電子商取引（概要、メリット、課題）（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕電子商取引についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第10回	クラウドサービス（概要、メリット、課題）（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕クラウドサービスについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第11回	電子政府・電子自治体（概要、メリット、課題）（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕電子政府・電子自治体についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第12回	電子決済・電子マネー（概要、メリット、課題）（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕電子決済・電子マネーについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第13回	デジタルトランスフォーメーション（DX）（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕デジタルトランスフォーメーション（DX）についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第14回	データ駆動型社会、人工知能（AI）の活用（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕人工知能に関する最近の話題についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第15回	ビッグデータやAI（特に生成系AI）の活用における留意事項（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕これまでの授業資料を確認しておくこと。〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すこと。期末試験に向けた学習を行うこと。なお、理解度を自己確認できるようにするため、これまで課したMicrosoft Formsを使った小テストを繰り返し実施できるようにする。	60分

評価方法	期末試験（30%）、各回の課題提出とその内容（70%）にて評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。
使用資料<テキスト>	都度、資料を配布する。
使用資料<参考図書>	<ul style="list-style-type: none"> 内閣府ホームページ（https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html） 情報処理推進機構ホームページ（https://www.ipa.go.jp/security/index.html） 特許庁ホームページ（https://www.jpo.go.jp/） 文化庁ホームページ（https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/index.html）
授業外学修等	毎回何らかの課題を課す。提出された課題のうちフィードバックが必要なものは、次回の授業でフィードバックを行う。

	日頃から新聞記事、テレビ番組などで、情報セキュリティ、秘密情報・個人情報保護、知的財産権、電子政府、デジタルトランスフォーメーションなどの情報収集をすること。
授業外質問方法	情報共有ツール(Teams)やメール(ochi@tuins.ac.jp)の利用、研究室を直接訪問するなど、気軽にお問い合わせください。
オフィス・アワー	木曜日・2限目・423研究室

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報メディア論		
(副題)	Information Media Theory		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	3年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 小森隆

授業の概要	インターネットで触れる機会の多い情報メディア(画像・動画・音声)の概念を理解するとともに、それを応用した処理技術に関して学ぶ。まず、各種情報メディアの処理に共通するデジタル信号処理の基礎を理解し、その直接的な応用である音声音響処理の技術について学ぶ。次に、対象を2次元信号に拡張した画像処理の技術について学ぶ。それらを総合した実用技術の一つとして、音声、画像、動画の符号化技術についても学ぶ。情報メディアの処理を体験する演習を併用するので、演習に用いるGoogleアカウントを事前に作成しておき、PCを毎回持参すること。(担当教員：企業での実務経験あり)
キーワード①	情報メディア
キーワード②	信号処理
キーワード③	音声音響処理
キーワード④	画像処理

到達目標

到達目標①	情報メディア(画像、動画、音声)を加工処理する各種技術の基礎を理解し、重要なキーワードを正しく使用することができる。(50%)
到達目標②	情報メディア(画像、動画、音声)を加工処理する各種技術の動作の概略を理解し、説明できる。(50%)
到達目標③	
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	0%
専門性の向上 (DP2)	100%
社会性の向上 (DP3)	0%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑨経営情報に関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎		○			

授業計画表

回	【授業内容】	(事前・事後学習)	(事前・事後学習時間)
第1回	ガイダンス (本授業で扱うトピックと全体像の説明、 本授業で用いる演習環境の説明)	[予習] シラバスを読んでおく。 [復習] 講義で説明した資料を再確認し、演習環境を整備しておく。	30分
第2回	デジタル信号処理① アナログ信号のコンピュータ入力 (フーリエ級数、標本化、標本化定理、ナイキスト周波数、エイリアシング、量子化、符号化) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「アナログ」「デジタル」「AD変換」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第3回	デジタル信号処理② 周波数解析 (フーリエ変換、離散フーリエ変換、スペクトル) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「フーリエ級数」「フーリエ変換」「周波数」「位相」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第4回	デジタル信号処理③ 畳み込みと線形システム (線形システム、時不変システム、インパルス応答、畳み込み) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「インパルス応答」「畳み込み」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第5回	デジタル信号処理④ デジタルフィルタの設計 (FIRフィルタ、ローパスフィルタ、サンプリング周波数変換) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「ローパスフィルタ」「サンプリング周波数変換」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第6回	音声音響処理① ノイズ除去 (信号成分、ノイズ成分、SN比、加算平	[予習] キーワード「ノイズ」「ホワイトノイズ」「SN比」について調べておく。	60分

	均、移動平均) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	
第7回	音声音響処理② 音響エフェクト(エコー、コンプレッサ、その他の音響エフェクト) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「リバーブレーター」「コンプレッサー・エフェクター」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第8回	画像処理① 画像の性質と色空間(画像の統計量、画像のノイズ、人間の視覚、表色系、色空間) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「色空間」「RGB」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第9回	画像処理② 画素ごとの濃淡変換(明るさ・コントラストの変換、カラー画像の色変換) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「コントラスト」「ガンマ補正」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第10回	画像処理③ 空間フィルタリング(平滑化、エッジ抽出、鮮鋭化) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「ラプラス作用素」「エッジ検出」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第11回	画像処理④ 周波数フィルタリング(画像のフーリエ変換、画像のフィルタ) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] 第3回～第6回の内容を再確認しておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第12回	画像処理⑤ 幾何学的変換(線形変換、アフィン変換、射影変換) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「線形写像」「アフィン写像」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料と演習の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第13回	情報メディアの符号化① 音声の符号化(音声圧縮技術) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「PCM」「MP3」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第14回	情報メディアの符号化② 画像・動画の符号化(画像圧縮技術、動画圧縮技術) ・WebClassで理解度テスト(自動採点付き)を実施	[予習] キーワード「JPEG」「MPEG」について調べておく。 [復習] 講義で説明した資料を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第15回	全体復習	[予習] これまでに用いた資料全体をひととおり再確認し復習しておく。 [復習] これまでの講義で説明した資料を再確認し、これまでの理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	90分
第16回	予備日		

評価方法	富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕に従って評価する。 ・到達目標①②: 期末試験80%、各回の理解度テスト20%
使用資料<テキスト>	講義の中で資料を配付もしくは投影する。
使用資料<参考図書>	必要に応じて提示する。
授業外学修等	予習・復習を確実に実施すること。疑問点については、教材以外にインターネット等の情報源も活用し、まずは自力での解消を試みる。
授業外質問方法	原則、授業後またはオフィス・アワーに対応する。その他の方法を希望する場合は事前に電子メール等でアポイントを取ること(メールアドレスは本学公式サイト内の教員紹介ページに記載)。
オフィス・アワー	火曜日・1限目・131研究室

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	情報システム開発技術		
(副題)	Information Systems Development Technology		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	3年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 豊岡理人
准教授	越智士郎

授業の概要	国家試験である「ITパスポート試験」および「基本情報技術者試験」の対象範囲を学習する。「ITパスポート試験」レベルを想定した「情報マネジメント論」「情報システム論」「情報技術論」の内容を復習しつつ、より高いレベルの知識を中心に学ぶ。特に、「ITパスポート試験」における計算問題や「基本情報技術者試験」の「科目B」試験において配点比率の高い「アルゴリズムとプログラミング」分野の比重を高くしている。(担当教員：実務経験あり)
キーワード①	アルゴリズム
キーワード②	情報セキュリティ
キーワード③	ネットワーク
キーワード④	情報マネジメント

到達目標

到達目標①	①「基本情報技術者試験」の「科目A」試験の過去問や模擬問題を、合格基準の60%以上正解できる。(50%)
到達目標②	②「基本情報技術者試験」の科目B試験の模擬問題を、合格基準の60%以上正解できる。(50%)
到達目標③	
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
--------------	--------------	--------------

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	0%
専門性の向上 (DP2)	100%
社会性の向上 (DP3)	0%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑨経営情報に関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎					

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス 基本情報技術者試験の概要、授業の進め方の説明	〔予習〕 シラバスを読んでおく。テキスト「序章 基本情報技術者試験の概要と効果的な学習方法」を読んで学習する。 〔復習〕 講義の内容を再確認しておく。	30分
第2回	アルゴリズムとプログラミング①アルゴリズムの基本1 ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	〔予習〕 テキスト「第3章 アルゴリズムとプログラミング 03-02 アルゴリズムの基本」を読んでおく。 〔復習〕 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第3回	アルゴリズムとプログラミング②アルゴリズムの基本2 ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	〔予習〕 テキスト「第3章 アルゴリズムとプログラミング 03-02 アルゴリズムの基本」のうち「トレース表」の説明（p.95）を読み、問題3-7、問題3-8の問題と解説（p.100、p.101-102）を読んでおく。 〔復習〕 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第4回	アルゴリズムとプログラミング③データ構造 ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	〔予習〕 テキスト「第3章 アルゴリズムとプログラミング 03-01 データ構造」を読んでおく。 〔復習〕 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第5回	アルゴリズムとプログラミング④整列アルゴリズム ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	〔予習〕 テキスト「第3章 アルゴリズムとプログラミング 03-03 アルゴリズムの分類 (1) 整列アルゴリズム」を読んでおく。 〔復習〕 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第6回	アルゴリズムとプログラミング⑤探索アルゴリズム ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	〔予習〕 テキスト「第3章 アルゴリズムとプログラミング 03-03 アルゴリズムの分類 (2) 探索アルゴリズム」を読んでおく。 〔復習〕 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分

第7回	情報セキュリティ ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報技術論」「情報システム論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第11章 情報セキュリティ」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第8回	ネットワーク ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報技術論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第10章 ネットワーク」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第9回	ヒューマンインタフェースとデータベース ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報技術論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第8章 ヒューマンインタフェースとマルチメディア」「第9章 データベース」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第10回	コンピュータシステム ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報システム論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第4章 コンピュータの構成要素」「第5章 システムの構成要素」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第11回	基礎理論 ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報システム論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第1章 基礎理論(1)」「第2章 基礎理論(2)」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第12回	システム開発と各種マネジメント ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報マネジメント論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第12章 システム開発」「第13章 ソフトウェア開発」「第14章 プロジェクトマネジメント」「第15章 サービスマネジメントとシステム監査」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第13回	システム戦略と経営戦略 ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報マネジメント論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第16章 システム戦略」「第17章 システム企画」「第18章 経営戦略マネジメント」「第19章 ビジネスインダストリ」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第14回	企業と法務 ・授業中に理解度テストを行う。解答後すぐに結果を確認できる。	[予習] 「情報マネジメント論」の関連箇所を復習しておく。 テキスト「第20章 企業活動」「第21章 法務」を読んでおく。 [復習] 講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	60分
第15回	全体復習	[予習] これまでの講義全体の内容をひとつおりの再確認し復習しておく。 [復習] これまでの講義の内容を再確認し、理解度テストの正解を自分自身で導けるようにしておく。	90分
第16回	予備日		

評価方法	富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕に従って評価する。 ・到達目標①②：期末試験80%、各回の理解度テスト20%
使用資料<テキスト>	高橋 京介著, 「【令和6年度】いちばんやさしい基本情報技術者 絶対合格の教科書+出る順問題集」, SBクリエイティブ
使用資料<参考図書>	必要に応じて提示する。
授業外学修等	ITパスポート試験および基本情報技術者試験はコンピュータを用いる方式によって随時実施される。本科目の受講と独学を並行して進め、自信がついた時点で本科目の終了を待たずに受験に挑戦することを推奨する。
授業外質問方法	原則、授業後またはオフィス・アワーに対応する。 もしくは、メールにして質問を受け付ける。 メールアドレスは、大学ホームページ(教員紹介ページ)を参照すること。
オフィス・アワー	(越智) 木曜日・2限目・423研究室 (豊岡) 木曜日・2限目・422研究室

シラバス参照

講義名	都市空間デザイン		
(副題)	Urban Space Design		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	3年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 川本聖一

授業の概要	<p>本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザインⅠ」「住環境デザインⅡ」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。</p> <p>その中で、「住環境デザインⅠ」と「住環境デザインⅡ」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。</p> <p>「都市空間デザイン」では、「住環境デザインⅠ・Ⅱ」で学んだ基礎知識が、実社会における法制度や社会システムの中でどのように活かされていくのかを学ぶ。</p> <p>また、住環境関連産業の発展の歴史や、問題点と今後の展望について学ぶとともに、都市計画の制度とまちづくりの手法も学習する。</p> <p>講義は1回ずつ完結するスタイルで行うため、「住環境デザインⅠ・Ⅱ」を未受講であったり、前回講義を欠席しても、その回の講義は理解できるように進める。</p> <p>15回目の最後の授業では、住宅展示場視察発表会を行う。各自住宅メーカーのモデルハウスを視察し、デザイン、性能、供給体制、保証制度など多角的に住宅商品を調査して、発表会を実施する。</p> <p>(担当教員：企業での実務経験豊富) (関連SDGs：目標7、目標11、目標12)</p>
キーワード①	住宅市場
キーワード②	住宅産業
キーワード③	建築基準法
キーワード④	品確法
キーワード⑤	まちづくり
到達目標	
到達目標①	①住環境産業の発展と最新状況を説明できる。(40%)
到達目標②	②住まいに係る法制度とまちづくりの手法を説明できる。(30%)
到達目標③	③今日的な住環境産業界の問題点を認識し、その解決に向けた将来展望のイメージを持つことができる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	
卒業要件・資格関連など	

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	20%
専門性の向上 (DP2)	70%
社会性の向上 (DP3)	10%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑧環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー (重視する能力)

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
○		○		

教授方法 (授業方法)

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				○

授業計画表

回	【授業内容】	(事前・事後学習)	(事前・事後学習時間)
第1回	ガイダンス	〔予習〕 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第2回	日本の住宅市場の現状	〔予習〕 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第3回	住宅産業の誕生と成長	〔予習〕 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第4回	住宅産業の構造	〔予習〕 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第5回	用途地域と建物の大きさ	〔予習〕 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第6回	法律用語と居室の規定	〔予習〕 Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成	30分

		し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	
第7回	安心・安全に暮らすための規定	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第8回	品確法1（概要と構造性能）	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第9回	品確法2（火災・劣化・維持管理・省エネ）	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第10回	品確法3（空気・光・高齢者・防犯・音）	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第11回	都市計画とまちづくり	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第12回	まちづくりの理論と実例	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第13回	住宅産業の現状と最新技術	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第14回	住宅産業の課題と将来展望	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	30分
第15回	住宅展示場視察発表会	[予習] Web Classで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習テスト」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。 住宅展示場視察発表会では、各自住宅メーカーのモデルハウスを視察し、デザイン、性能、供給体制、保証制度など多角的に住宅商品を調査して、発表会を実施する。	150分

評価方法	到達目標について、「富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕」に従った観点から評価する。期末考査は行わない。毎回の講義の終わりに行う「ミニテスト」（約50%の評価）、全員が提出すべき「必修レポート」（「復習テスト」を含む）、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」、調べたことを全員の前で発表する「プレゼンテーション」（ミニテスト以外で約50%の評価）の4項目で評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。
使用資料<テキスト>	オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリントをストックできるように準備すること。
使用資料<参考図書>	授業の内容はSNS上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に応じて、SNS上に整理してUPする。
授業外学修等	授業以外に、自ら調べてそれを自分の言葉でまとめる作業を、ほぼ毎回宿題として出題する。全員が提出すべき「必修レポート」、過去の講義の内容を復習する「復習レポート」、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」がある。
授業外質問方法	オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、Web Classにて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールにて行うことを希望する。 メールアドレス：kawamoto@tuins.ac.jp
オフィス・アワー	水曜日・1限目・439研究室

ウインドウを閉じる

